

令和元年度 第2回北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和元年12月19日(木)午後1時30分から午後2時55分まで
会場	北地区コミュニティセンター 1階 講座室1
出席者	北区自治協議会福祉教育部会委員8名(欠席2名) 木崎小学校増井一久校長、光晴中学校逸見東子校長 北区自治協議会福祉教育部会事務局1名 教育委員：田中賢一教育委員、渡邊節子教育委員 事務局：教育総務課 佐藤課長補佐、教育総務課 曾我主査 地域教育推進課 緒方課長、学校支援課 佐久間課長補佐 豊栄地区公民館 拝野館長、豊栄図書館 池田館長 北区教育支援センター 佐藤所長、今井指導主事、清水指導主事、 新保主任
議事	傍聴者：なし 1 開会 2 教育委員挨拶(田中教育委員、渡邊教育委員) 3 事業説明
学校支援課 佐久間課長 補佐	(1) 全国学力・学習状況調査の結果について 子どもたちに、表面的な学習ではなく、深い学びになる質の高い学習を求めている。 調査項目中、「学校であったことを家の人と話をしますか」「自分で計画を立てて勉強していますか」「国語の勉強は大切だと思いますか」「自分で工夫をしていますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」を肯定的にとらえている児童生徒は学力が高い傾向にあると言われている。新潟市でも北区でも高い数値である。 子どもたちがどういう意識をもって学習するかが大切。新潟市の教育委員会が示す学習のあり方の中で、学校が工夫しながら学びの場をしっかりと提供すれば、子どもたちが自分の能力を十分に発揮することができる。 調査結果として、学習意欲が高いと学力が高い傾向があるが、将来の夢や希望を持っているからといって学力が高いわけではない。 教育委員会としては、子どもたちが学習できる環境をしっかりと整え、教員の資質・能力の向上のために、年間を通して研修を重ねていくという形になっている。
清水委員 佐久間課長 補佐	北区は全体的に新潟市の中で低い数値であるが、どう見ればいいのか。 取組で向上している学校もあるので、全体的に北区が低いというわけではない。数値として見るとこのような結果だが、学習意欲があって、学校でのことを家庭でよく話す、読書をしっかりしている、自分で計画を立てて勉強するなどの項目については北区は数値が高い。そのところをしっかりと伸

ばしていき、不得手な教科も頑張っけて取り組むということをしずつ積み重ねることで差はなくなってくるかと考えている。

清水委員

私は早通中学校の評議員をやっているが、今回早通中学校は新潟市の水準を上回った。どこからそういう成果が出てきたのかと考えると、以前に比べ、生徒の学習意欲があり、非常に素直になった。そういうことが生きてきているのかなと感じた。授業見学してみると、先生方の教え方もいい。それで早通中学校は数値が上がったのかなと思うが、学校によって差があるだろうから、この数字をどういふふうに見ればいいのかなと思った。

佐久間課長
補佐

新潟市では、授業の中で学習の課題を教員も子どももしっかりと把握して、何が疑問になっているのかを明確にしている。学習が進むにつれて、子どもたちは、意見のやり取りや、自分の持っていた考えをきちんと出して仲間と比較していく中で、自分に足りなかったものは何か、新しい知識は何かを理解している。それを個人で考えたりグループでやったりしている。必ず授業の終わりには、自分がどういふ勉強をしたのか振り返りをしている。これを新潟市共通で取り組んでいるので、その積み重ねで成果を上げていると思う。

梅津委員

小学校も中学校も「将来の夢や目標を持っているか」の数値が低いことが気になった。学力とは関係ないとお話だが、中学生くらいになったら、しっかりとした将来の夢や目標を持たせていきたいと思っている。そのためにより事例があれば教えてほしい。

佐久間課長
補佐

将来の夢や希望、自信というものは短期間で生まれるものではない。小学校から自分の学習したことや自分の夢をきちんと蓄積していって中学校に進学する、その時に自分のキャリアをしっかりと把握することが大事。将来の夢が決まっている人もいると思うし、自分では決められないという事もあると思うが、そういう積み重ねを、教育委員会でも「キャリアノート」や「キャリアパスポート」というものでやっていこうとなっている。これまでも各学校でやっていることだが、それをしっかりと整理して小学校から中学校へつなげていこうという取組をしている。これから取り入れていく学校もある。そういう取組がある。

平松委員

中学校で何年か前から武道が必修になったと聞いた。全国学力・学習状況調査の話の中でも人間性というような話があったが、武道を学ぶことから、人間性の部分にどういふふうに関立っているのか。

佐久間課長
補佐

武道で培われた逞しさや鍛錬された心、道徳性など、武道への取り組みが人間性を高めていくことにつながっていくのではないかとと思う。

平松委員

市内の中学校で柔道、剣道、弓道をそれぞれ何校やっているのか。

佐久間課長
補佐

後日回答する。

(2) 学校現場での三者連携の具体的な取組状況と課題

木崎小学校
増井校長

取組発表

- ・地域教育コーディネーターの日々の取組の中に、「リピーター」（繰り返し学校行事に協力してくれる方）と「スピーカー」（良さを積極的に周りの人に伝えてくれる方）を創り出す工夫がある。
- ・子どもが自宅で「今日は〇〇さんのお家の人 cameよ」と話題にしている。
- ・数年前に学校が落ち着かない状態になった時に、保護者の学校への関心が高まった。

光晴中学校
逸見校長

取組発表

- ・PTA活動の様子について、学校だけでなく、校外、地域、市の活動への参加についても広報し、「いつ、どんな活動をしているのか」を「見える化」した。
- ・PTA活動を「見える化」したことで、活動時期や活動内容が分かり、役員も一般会員も参加しやすくなった。
- ・学校活動に協力したいという気持ちを持つ保護者の存在が見えてきている。
- ・一部の方に負担がかかるのではなく、広く、参加できるときに参加するという風土が生まれ始めている。

4 グループディスカッション

テーマ「保護者、地域、学校の連携について」

～保護者の関わりをより深めた三者連携の仕組みのあり方～

司会

（趣旨説明）

- ・第1回北区教育ミーティングにおいて、保護者、地域、学校の三者連携の課題として、保護者の関わりが希薄になっているのではないかとということが挙げられた。

- ・保護者の関わりをより深めていくためにはどうしたら良いのか、そして、地域総がかりで子どもを支える三者連携のあり方について、それぞれの立場から前向きな意見交換をお願いしたい。

A班

- ・PTA活動で一生懸命がんばる姿を子どもに見せることが大切だと思うが、全く無関心の保護者もいる。

- ・学校に高い壁を感じるので、光晴中学校の取組発表にあった、PTA活動の「見える化」は良い。

- ・学校として保護者の関わりを多くするため取り組んだこと。

- ① 部活の激励会を見てもらい、その後学級懇談会を行う。
- ② 休日に授業参観とPTA総会を行う。
- ③ 親子で楽しむ活動を実施する。

④ 体育祭前の除草を親子で実施する。

⑤ 学校のホームページにPTAコーナーを設けたり、子どもたちの口伝えを利用したりして広報活動を行う。

- ・学校行事やPTA活動を、事後ではなく事前に地域に発信してほしい。
- ・保護者同士の関係が作られているとPTA活動に参加しやすいので、保護者同士が仲良くなる機会があるといい。
- ・PTAのネットワークづくりをどうしていくか。
- ・子どもと顔見知りになるとその親と親しくなりやすい。
- ・地域教育コーディネーターと保護者のつながりができると良いのではないか。
- ・仕事をしている保護者は平日学校に行けない。雇用主が参加しやすい環境づくりをすることも大切。

B班

- ・木崎小学校の取組発表で、以前学校が落ち着かない状態になったときに保護者が学校へ関わるようになったと言っていたが、それが今も続いているということは、保護者同士のつながりや伝えるという地域の文化がカギなのではないか。
- ・ボランティアに行くと、子どもたちとも顔見知りになり、その中で自分のお母さんをボランティアに誘ってくれた子どもがいた。
- ・ボランティアに何度か行って、頼りにされると「また行こう」と思う。
- ・幼稚園の頃からのつながりがあり、親同士みんなで学校ボランティアに行っていた。
- ・小学校に入ると、先生や他の保護者と話す機会やアドバイスの必要性を感じなくなる。小学校も子育ての大切な時期であることを学校から伝えてほしい。
- ・学校からの懇談会の案内で、「大事なのでぜひ出席してください」と呼び掛けてほしい。行きたくないわけではないので背中を押してほしい。
- ・懇談会に一度行けば次につながる。ボランティアに行ってみようというきっかけになるかもしれない。
- ・懇談会やボランティアに行くと、知っている人がいなかったらどうしようという不安がある。
- ・学校に行っても、声をかけられないと孤立させてしまう。絶対に誰かと話すような機会や仕組みがあればいいのでは。
- ・学生でボランティアをしているが、募集があると最初は他の人を誘って参加していたが、何回か行って状況が分かってくると、一人でも参加できるようになった。
- ・学校では、スピーカー、リピーター、地域教育コーディネーターの存在が大事。父親の参加が多い学校があり、来て、楽しんで参加して、声をかけて

また来てくれていた。

・これまで意見を聞いていると、初めの一步がとても大事ということではないか。ぜひ初めの一步を踏み出してほしい。

渡邊教育
委員

具体的な話が聞けて良かった。P T Aで何をやっていいか分からないというところから、こういう目的でこういうことをやっているということが保護者にも地域の方にも分かると、それならできそうなことがあるからやってみようという人が増えていくのではないか。実際にそういうことをやっている学校もあり、少しずつ広がっているのではないかと頼もしく感じた。他の区でも、具体的な時間のアナウンスがあることで、参加する人が増えたという話があった。

学校は敷居が高く、入るのに抵抗がある方が多いという話があった。以前自分自身も学校は壁が白くて殺風景で緊張したことを覚えている。学校の当たり前と地域の方やP T Aの感覚とは少しギャップがあるのかなと思った。

他にもいろいろな意見があったので、他区担当の教育委員とも共有して今後に生かしたい。

田中教育
委員

全国学力・学習状況調査について、「いじめはどんな理由があってもいけないと思うか」、「人が困っている時は進んで助けている」の項目は、全国や新潟市全体に比べはるかに数値が高い。「いじめはだめだ、周りの人に手を差し伸べよう」という温かい心を持った子どもたちが多い。更に驚いたのは、「地域の行事に参加していますか」という項目も、全国や新潟市全体から見たら非常に高い。北区が新潟市内で一番高い。これは、今日の小学校と中学校の先生方のお話にもあったように地域をあげて子どもたちを支えている、学校だけではできない中でしっかりと地域の人々の力が学校に入り込み、子どもたちの心を育てている証だと思う。保護者、P T Aをどうやって巻き込むかということは昔から言われているが、今日の話の中にも、保護者の力がしっかりと学校に入っているという話がありました。

B班の話で最後に到達したのが、「初めの一步が大事だよ」ということ。ぜひ、北区の地域の皆さんが学校を支えてくれる力を、初めの一步に生かしながら、より、子どもたちのために力を合わせていけたらと思う。

5 北区自治協議会福祉教育部会長あいさつ

6 閉会

「リピーター」と「スピーカー」が創り出す、木崎小学校の学校支援

新潟市立木崎小学校
校長 増井 一久

1 はじめに

この度、北区教育ミーティングにおいて貴重な発表の機会をいただき、地域教育コーディネーターとその「秘密」を話し合いました。「特段何もしていない」とのことですが、地域教育コーディネーターの日々の取組の中に、協働・参画を積極的にする働きかけの工夫があることに気付きました。キーワードとして注目したのは、「リピーター」（繰り返し学校行事に協力してくれる方）と「スピーカー」（良さを積極的に周りの人に伝えてくれる方）の存在でした。

2 「リピーター」と「スピーカー」を創り出す地域教育コーディネーター

- (1) 各学校行事のねらいと活動内容を熟知している。
- (2) 児童の実態（特別な支援を要する児童についても）を熟知している。
- (3) 学校行事毎にその支援の仕方に精通した方が誰かを熟知している。
- (4) 支援者一人一人に支援内容等について、明確な指示を出している。
- (5) 支援者一人一人の不安を把握し、それが無くなるまで親身に対応している。
- (6) 支援者の活動後の「意見・感想」を計画立案者に伝え、次に反映させている。
- (7) 支援者に感謝の気持ちを伝えている。
- (8) 地域教育コーディネーター通信「いきいき きざきっ子応援団」を定期的に発行している。

学校と地域・保護者をつなぐ地域教育コーディネーターの細やかな気配りにより、協働・参画して下さった方々が、次も協力したいと感じたり（「リピーター」）やりがいや面白さを周りの人々に伝えたり（「スピーカー」）することが好循環となっているものと思われま。また、子どもが自宅で「今日は〇〇さんのお家の人に来てたよ。」と話題にしてくれることも少なからず影響があると思われま。

3 おわりに

数年前、当校が落ち着かない状態に陥ったことで、保護者の学校への関心が高まり、「自分たちが何とかしなければならぬ」という気持ちが芽生えたと聞きました。このことが、他校に比べ保護者の参加率が高いことの一因かもしれません。うれしいことに、最近では父親の参画が年々増えて来ています。

今後、地域教育コーディネーターと連携しながら「なぜ木崎小の保護者が協力的でいられるのか」について、PTA 役員だけでなく、協力していただいた方々との会話を通し木崎小の良さをさらに追究していきたいと思ひます。これからも「地域と共に歩む木崎小学校」を創っていきたく思ひますので、関係の皆さまには引き続き、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

保護者との連携による教育活動の推進～PTA 活動を通して～

新潟市立光晴中学校

校長 逸見東子

1 現状

- ① 多方面の活動について、地域からの支援・協力がある。
- ② 地域の方と保護者が協働する場面は少ない。
- ③ 保護者の多くが共働きのため、時間の制約が多い。平日の日中の活動が難しい。
- ④ PTA の会合が夜間に多く、保護者・学校関係者の負担が大きい。
- ⑤ PTA 活動について、行事的な内容については比較的参加はあるが、企画を伴う活動については教師主導になり、PTA としての独自性が発揮されにくい。
- ⑥ PTA 役員が単年度選出のため、事業の成果や課題が継承されにくい。

2 取組の実際

- ① PTA (特に保護者) が主体となって行う活動の推進
 - ア ペンキ塗り活動での運営を PTA 役員が行う。
 - イ 葛塚まつりの巡視を保護者に移行。
- ② 学校教育全体を通して
 - ア PTA 活動への参加の様子を広報する。
学校行事への協力の様子だけでなく、区 P や市 P 等、校外会合への参加の様子等も保護者に伝え、活動の見える可を図る。
※ 「何をするのかが分からない」、「何をしているのかが分からない」の払拭。
 - イ 意欲や関心のある保護者が活動に参加できる場を設定する。
例) 学年行事の手伝いを学年独自に募集。学年 PTA 役員だけでなく一般会員も参加。
夏休み中にペンキ塗り活動を実施。保護者・生徒・教員も一緒に作業。
- ③ 昨年度から継続して PTA 三役を担ってくれている役員の存在



3 成果と課題

- ① 学校の教育活動に協力したい気持ちをもった保護者がいることが顕在化してきた。
- ② 働き方改革の視点を持ち、取組を再考しようという風土が保護者・地域にも生まれている。

4 今後の取組

- ① PTA 専門部の統廃合
既に校務として行っている事業と統合させ、業務を精選する。専門部を統廃合する。
PTA (保護者) に担ってもらいたい (主体となって行う) 活動を洗い出し、ねらいを明らかにして広く参加を呼び掛ける。(興味のあることには、誰でも参加できる場を提供する。)
- ② 地域本部 (空間) の活用
既に地域教育コーディネーターから、地域に開かれた空間として運営してもらっている。更に保護者にも立ち寄ってもらう機会 (いつでも、どうぞ) を設定する。

